

「いつまでもわが家で暮らしたいをささえる」 ～支える人@歯科医師～



◆プロフィール

永井孝信 吉永歯科医院 院長
広島県出身 カープファン

「口は命の入り口」

「口は命の入り口、心の出口」という言葉があります。文字通り、口から食べ物を食べ、言葉を発することで自分の気持ちを伝える、という意味の言葉です。生活をする上で基本的なことのように思えますが、高齢の方にとっては当たり前のことではありません。

いつまでも自立した生活を送る条件の1つに自分の口で食べる、ということがあります。そして、自分の口で食べるためには、口の健康を維持することが不可欠です。しかし、その健康が維持できていない事例を数多く経験してきました。

事例①

ある居宅に伺ったときのことで、高齢者の女性がお一人で暮らされていますが、ご家族から訪問歯科の依頼がありました。入れ歯が痛いとの訴えでしたが、確認してみるとなんと入れ歯にカビがはえていました。口の中にもカンジダ菌（カビの一種）が繁殖し、見るに耐えない状態でした。

しかし、ご本人は特にそれに気付かず、その入れ歯で食事をされているそうです。その方は結局入れ歯を新しく作り直しましたが、一人で暮らせることが健康と同義ではないと実感した瞬間でした。

事例②

また、別の方ですが、胃ろう（※1）をされている高齢男性がいらっしゃいました。周囲の方にお話を聞くと、数年前に胃ろうにしてから、ご本人も口から食事をしたいとの訴えが強く、どうにかならないか、という相談でした。医師や介護職の方に相談をした上で、嚥下（※2）内視鏡を用いた検査を行ったところ、嚥下機能の低下もあまり認められず、口からの食事が可能なのではという予測ができました。リスクを説明した上で経口摂取（※3）を少しずつ行ったところ、今では3食とも口から食べられています。

決して、胃ろうを否定しているのではありません。口から食べたくても胃ろうで命を繋ぐことしかできない方もいらっしゃると思います。しかし、この方のように、実は食事ができるのに、胃ろうの状態が継続している方もいます。その方に適した食事の取り方を見つけるのが私たち歯科医師・歯科衛生士の仕事だと思えます。



訪問歯科診療の様子

先ほどお話したようにご自分で一人暮らしされているから、問題なく生活できているとは限りません。むしろ、一人暮らしをされている方は周りの目が届かずに、放置されている場合が多いのも現実です。慣れ親しんだ住まいで生活をするためにも、口から健康に食べることを続けて欲しい、そしてそのお手伝いとして訪問歯科はあります。

まだまだ、訪問歯科の認知度は高くなく、「こんなサービスがあるなら、もっと早くから受けたかった」という声も頂きます。多くの人たちに快適な口の環境を提供するために、歯科業界も更なる努力が必要と感じます。

※1胃ろう 内視鏡を使っておなかに小さな穴を作ります。口から食事のとれない方や食べてもむせこんで肺炎などを起こしやすい方に直接おなかに空けた穴から管で栄養を入れる方法です。

※2嚥下 食べ物を飲み込む事

※3経口摂取 口から栄養をとること

無料歯科検診をしてみませんか？



下益城郡歯科医師会では、身体的な理由等で通院が困難な方向けに、**無料の歯科検診**を行っております。歯科検診では、日々の生活で気づきにくい口腔内の状態を把握し、ご本人に最適な口腔内のケアのアドバイスをしています。ご自宅、施設、病院と歯科医師が伺います。歯やお口に関する事でちょっとでも気になる事があればまずは検診をうけてみませんか？



◆お問い合わせ◆下益城郡歯科医師会（吉永歯科医院内）

TEL：0964-32-5801

受付時間 9：00～17：30